



昭和35年(1960)頃 上空写真



竣工間もない東書庫と図書閲覧室



西書庫 3階格子天井



平成23年(2011) 現在の東西書庫



平成22年(2010) 柔道場内部



平成18年(2006) イチョウの中の柔道場



大正15年(1926)の卒業アルバムから。石畳、石橋を渡って柔道場へ向かう。

東書庫・西書庫

のように人々の目に映ったことだろう。石積はたびたび改修を受けていて、今回の登録有形文化財として登録される範囲は、戦後の改修が加わっていないであろう正門と石積合わせて延長1,032mである。

東書庫は明治35年(1902)竣工、煉瓦造3階建。切妻造棧瓦葺、洋小屋組で、母校で一番古い建物。併行して図書閲覧室が南側に隣接して建てられ、文字通り「書庫」として活用された。

建築当初は白漆喰塗の土蔵風だったが、大正15年から昭和5年までの間に黒漆喰で上塗りされた。昭和5年(1930)に西書庫の完成と併行して、モルタルで塗り直されたとみられ、現在とほぼ同じ外観となった。

昭和5年に増築された西書庫は、当時本格的に建設が始まった鉄筋コンクリート造3階建で、陸屋根を採用。外部からの入り口は無く、東書庫

の壁を壊して通路が設けられた。窓や東書庫への連絡部分には手動式の防火シャッターも設けられている。床は人造大

柔道場

理石研き出し、内部壁面は白漆喰、現在も亀裂等は皆無と言っているほど見られない。岡山空襲では図書閲覧室が全焼したものの、書庫は奇跡的に焼失を免れた。図書閲覧室は戦後復興され、朝日高校に移管後も書庫として使われ続けたが、昭和45年(1970)校舎新築に際し、解体された。

大正8年(1919)竣工。

木造平屋建、切妻造妻入、基礎は煉瓦造、外壁は下見板張。木造トラスの小屋構造を持ち、天井は張られておらず、壁面外側には2間毎に控え柱が設けられている。屋根は当初は瓦葺だったが、現在はガリバリウム鋼板葺。

道場は畳119畳敷で、床には大引を上下2本入れ、その間にコイルスプリングを配置して、衝撃を吸収するようになっている。



本年7月1日、『岡山朝日高等学校建造物登録有形文化財登録記念』オリジナルフレーム切手が郵便局株式会社中国支社から発売された。デザインは生徒会が担当した。